

2021 年度 シラバス (授業要覧)

仏教学科 2 年生



科 目	真宗学概説 I	開講時期 履修方法	2 年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第十二願から第十六願）から学ぶ。読解・講義・確認・攻究・発表を行う内容とする。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	講義の準備、講義中、また学習・攻究において積極的な学びができているかを確認し評価する。 学期末に学びの振り返りとしてレポート試験を実施する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 授業の進め方について	本願文を学ぶとは	
2.	第一願から第十一願を振り返って① 講義	第一願から第十一願の確認	
3.	第一願から第十一願を振り返って③ 確認	ノート整理	
4.	第一願から第十一願を振り返って③ 学習・攻究	課題の探求	
5.	第十二願 光明無量の願① 講義	第十二願文読解	
6.	第十二願 光明無量の願② 学習・攻究	第十二願について考える	
7.	第十三願 寿命無量の願① 講義	第十三願文読解	
8.	第十三願 寿命無量の願② 学習・攻究	第十三願について考える	
9.	第十四願 声聞無数の願① 講義	第十四願文読解	
10.	第十四願 声聞無数の願② 学習・攻究	第十四願について考える	
11.	第十五願 眷属長寿の願① 講義	第十五願文読解	
12.	第十五願 眷属長寿の願② 学習・攻究	第十五願について考える	
13.	第十六願 無諸不善の願① 講義	第十六願文読解	
14.	第十六願 無諸不善の願② 学習・攻究	第十六願について考える	
15.	まとめ	これまでの確認	
教科書	『本願文』（大阪伝研の会）		
参考書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	受講態度（50%）、授業内発表（20%）、定期試験（30%）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	真宗学概説Ⅱ	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航・三明智彰	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	私たちは自分の思いに先立って願われている存在である。そのことを『大無量寿経』本願文（第十七願から第二十二願）から学ぶ。読解・講義・確認・攻究・発表を行う内容とする。		
到達目標	本願文の学習を通して、すべての科目の基本軸として、出遇うべき仏教の精神を確認することができる。		
学習成果の 評価基準	講義の準備、講義中、また学習・攻究において積極的な学びができているかを確認し評価する。 学期末に学びの振り返りとしてレポート試験を実施する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	第十七願 諸仏称名の願① 講義	第十七願文読解	
2.	第十七願 諸仏称名の願② 学習・攻究	第十七願について考える	
3.	第十八願 至心信楽の願① 講義①	第十八願文読解	
4.	第十八願 至心信楽の願② 講義②	第十八願文読解	
5.	第十八願 至心信楽の願③ 学習・攻究	第十八願について考える	
6.	第十九願 至心発願の願① 講義	第十九願文読解	
7.	第十九願 至心発願の願② 学習・攻究	第十九願について考える	
8.	第二十願 至心回向の願① 講義	第二十願読解	
9.	第二十願 至心回向の願② 学習・攻究	第二十願について考える	
10.	第二十一願 具三十二相の願① 講義	第二十一願読解	
11.	第二十一願 具三十二相の願② 攻究	第二十一願について考える	
12.	第二十二願 還相回向の願① 講義①	第二十二願読解	
13.	第二十二願 還相回向の願② 講義②	第二十二願読解	
14.	第二十二願 還相回向の願③ 学習・攻究	第二十二願について考える	
15.	まとめ	これまでの確認	
教科書	『本願文』（大阪伝研の会）		
参考書	『真宗聖教全書一』、『真宗聖典』、『新漢語林』、『岩波仏教辞典』		
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）、授業内発表（20％）、定期試験（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	教行信証概説Ⅰ	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。前期は、「総序」を読んでいく。		
到達目標	『教行信証』「総序」の内容が理解できるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
2.	『教行信証』の概要①	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
3.	『教行信証』の概要②	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
4.	「総序」の構成	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
5.	「竊以」と「謹案」	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
6.	難思の弘誓と無碍の光明①	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
7.	難思の弘誓と無碍の光明②	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
8.	『観無量寿経』序分①	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
9.	『観無量寿経』序分②	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
10.	逆謗闡提を恵まんと欲す	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
11.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽①	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
12.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽②	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
13.	円融至徳の嘉号と難信金剛の信楽③	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
14.	到達目標確認試験	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
15.	前期のまとめ	「総序」を読み、分からない言葉を調べる。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）到達目標確認試験（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	教行信証概説Ⅱ	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞の主著『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）を読むことを通して、親鸞が明らかにした仏道を学ぶ。後期は、「別序」と「後序」を読んでいく。		
到達目標	『教行信証』「別序」と「後序」の内容が理解できるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に達しているか確認するために、到達目標確認試験を行い評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	「別序」の構成	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
2.	「如来選択の願心」と「大聖矜哀の善巧」①	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
3.	「如来選択の願心」と「大聖矜哀の善巧」②	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
4.	沈迷の二機	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
5.	「愚禿釈親鸞」の名のり	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
6.	しばらく疑問を至してついに明証を出す①	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
7.	しばらく疑問を至してついに明証を出す②	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
8.	毀謗を生ずることなかれ	「別序」を読み、分からない言葉を調べる。	
9.	「後序」の構成	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
10.	承元の法難①	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
11.	承元の法難②	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
12.	雑行を棄てて本願に帰す①	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
13.	雑行を棄てて本願に帰す②	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
14.	到達目標確認試験	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
15.	後期のまとめ	「後序」を読み、分からない言葉を調べる。	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50%）到達目標確認試験（50%）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	真宗学Ⅲ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	安武智丸	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	インド・中国・日本三国の七祖は、それぞれの時代・社会が提起する人間の課題をもって釈尊の経説の真意を尋ね、その課題に応える道が本願念仏の教えであることを身をもって領かれた。しかも七祖はそれぞれ「前を訪ね、後を導く」ことで呼応し、真宗の伝統を培われた。その七祖のうち『正信偈』によって龍樹・天親・曇鸞三師が明らかにした仏道を学ぶ。		
到達目標	大乘仏教の課題と展開および基礎概念を把握した上で、宗祖親鸞聖人の仏教史観を理解する。		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るため、定期試験を実施し、6割以上の正答を求める。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 大乘仏教の興隆と課題	『大乘の仏道』を読む	
2.	本願名号のあゆみ 一よきひとのおおせー	『浄土の真宗』を読む	
3.	仏者の伝統 一七祖を貫くものー	『浄土の真宗』を読む	
4.	龍樹菩薩①龍樹の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
5.	龍樹菩薩②釈尊を受け継ぐもの 一有無の見を破るー	『浄土の真宗』を読む	
6.	龍樹菩薩③易行道を開く 一菩薩道の課題ー	『浄土の真宗』を読む	
7.	龍樹菩薩④必定に入る 一現生不退 即得往生ー	『浄土の真宗』を読む	
8.	天親菩薩①天親の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
9.	天親菩薩②浄土を明かす 一願生浄土ー	『浄土の真宗』を読む	
10.	天親菩薩③空過を超える 一本願力に遇うー	『浄土の真宗』を読む	
11.	天親菩薩④成仏の門 一五念門ー	『浄土の真宗』を読む	
12.	曇鸞大師①曇鸞の生きた時代とその学び	『浄土の真宗』を読む	
13.	曇鸞大師②仙経を焼く 一五濁の世 無仏の時ー	『浄土の真宗』を読む	
14.	曇鸞大師③回向の仏道 一他力回向ー	『浄土の真宗』を読む	
15.	曇鸞大師④如実なる行 一凡夫の仏道ー	『浄土の真宗』を読む	
教科書	『真宗聖典』『真宗聖教全書』『大乘の仏道』『浄土の真宗』『正信偈』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 授業内課題（10％） 定期試験（60％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科 目	真宗学Ⅳ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	権藤正信	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	親鸞聖人は七祖を、その役割の上から論家と釈家に分けている。論家とは龍樹・天親・曇鸞の上三祖、釈家とは道綽・善導・源信・源空の下四祖をいう。特に下四祖は、「末法五濁」という時代社会と、そこに生きる「凡夫」という人間存在の課題を釈尊の教説にたずね、その課題に応える道が本願念仏の教えであることを身をもってうなずいていかれた。その一端を『正信偈』を通して学んでいく。		
到達目標	『正信偈』道綽章・善導章・源信章・源空章の内容を理解できる。平易な漢文を訓読できる。道綽・善導・源信・源空の伝記と思想の概要を理解できる。		
学習成果の 評価基準	定期試験において、6割以上の解答ができることを以て、到達目標を達成していると評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	道綽禅師 聖道門と浄土門 「道綽決聖道難証 唯明浄土可通入」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
2.	道綽禅師 他力の念仏 「万善自力貶勤修 円満徳号勤専称」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
3.	道綽禅師 三不三信の教え 「三不三信誨慇懃 像末法滅同悲引」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
4.	道綽禅師 誓願に遇うということ 「一生造悪値弘誓 至安養界証妙果」	『正信偈』道綽章を読んでおく	
5.	善導大師 独り仏の正意を明かす 「善導独明仏正意」	『正信偈』善導章を読んでおく	
6.	善導大師 悲しい凡夫を哀れむ 光明と名号 「矜哀定散与逆悪 光明名号顕因縁」	『正信偈』善導章を読んでおく	
7.	善導大師 金剛の信心 「開入本願大智海 行者正受金剛心」	『正信偈』善導章を読んでおく	
8.	善導大師 慶喜の一念 「慶喜一念相応後 与韋提等獲三忍 即証法性之常楽」]	『正信偈』善導章を読んでおく	
9.	源信僧都 偏に安養に帰す 「源信広開一代教 偏帰安養勤一切」	『正信偈』源信章を読んでおく	
10.	源信僧都 報土と化土 「専雑執心判浅深 報化二土正弁立」	『正信偈』源信章を読んでおく	
11.	源信僧都 極重の悪人 「極重悪人唯称仏 我亦在彼摄取中 煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」	『正信偈』源信章を読んでおく	
12.	源空上人 善悪の凡夫人 「本師源空明仏教 憐愍善悪凡夫人」	『正信偈』源空章を読んでおく	
13.	源空上人 真宗 選択本願 「真宗教証興片州 選択本願弘悪世」	『正信偈』源空章を読んでおく	
14.	源空上人 疑いの心 「還来生死輪転家 決以疑情為所止」	『正信偈』源空章を読んでおく	
15.	源空上人 信ずる心 「速入寂静無為楽 必以信心為能入」 まとめ 「弘經大士宗師等 拯済無辺極濁悪 道俗時衆共同心 唯可信斯高僧説」	『正信偈』源空章を読んでおく	
教科書	『真宗聖典』『真宗聖教全書一』		
参考書	『仏教辞典』『漢和辞典』		
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 定期試験（70％）		
特記すべき 事項	配付資料が散逸しないよう、フラットファイルを用意すること。		
質問・相談 の受付	授業後、個別に、相談があれば受け付ける。		

科 目	真宗聖教講読Ⅲ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	『歎異抄』を読むことを通して、親鸞聖人があきらかにした仏道を共に尋ねていく。卒業論文の作成に資するよう、発表形式でお互いに問いを深めていくことを主眼とする。		
到達目標	・発表用のレジュメを作成し、発表することができる。 ・発表に基づいてまわりと議論し（攻究）、課題を深めていくことができる。 ・これらの活動を通して、『歎異抄』の「前序」から「第3条」の理解を深めることができる。		
学習成果の 評価基準	毎回の発表レジュメの作成と発表内容、さらにまわりとの議論の状況を「受講態度」の評価とする。また、授業の合間に「小レポート」を実施し到達目標の達成度を評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業概要の確認	『授業要覧』を読む	
2.	『歎異抄』 「前序」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
3.	『歎異抄』 「前序」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
4.	『歎異抄』 「第1条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
5.	『歎異抄』 「第1条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
6.	『歎異抄』 「第1条」についての発表および攻究（3）	発表準備と振り返り	
7.	これまでの学習内容の振り返り 小レポート作成	これまでの振り返り	
8.	『歎異抄』 「第2条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
9.	『歎異抄』 「第2条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
10.	『歎異抄』 「第2条」についての発表および攻究（3）	発表準備と振り返り	
11.	これまでの学習内容の振り返り 小レポート作成	これまでの振り返り	
12.	『歎異抄』 「第3条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
13.	『歎異抄』 「第3条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
14.	『歎異抄』 「第3条」についての発表および攻究（3）	発表準備と振り返り	
15.	これまでの学習内容の振り返り 小レポート作成	これまでの振り返り	
教科書	『真宗聖典』、『新漢語林』、『古語林』、『仏教辞典』		
参考書	三明智彰『歎異抄講義』		
学習成果の 評価方法	「受講態度」〔発表レジュメの作成と発表内容、さらにまわりとの議論の状況〕（70％）、「小レポート」（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。		

科 目	真宗聖教講読Ⅳ	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	『歎異抄』を読むことを通して、親鸞聖人があきらかにした仏道を共に尋ねていく。卒業論文の作成に資するよう、発表形式でお互いに問いを深めていくことを主眼とする。		
到達目標	・発表用のレジュメを作成し、発表することができる。 ・発表に基づいてまわりと議論し（攻究）、課題を深めていくことができる。 ・これらの活動を通して、『歎異抄』の「第4条」から「第9条」の理解を深めることができる。		
学習成果の 評価基準	毎回の発表レジュメの作成と発表内容、さらにまわりとの議論の状況を「受講態度」の評価とする。また、授業の合間に「小レポート」を実施し到達目標の達成度を評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス・授業概要の確認	『授業要覧』を読む	
2.	『歎異抄』「第4条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
3.	『歎異抄』「第4条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
4.	『歎異抄』「第5条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
5.	『歎異抄』「第5条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
6.	『歎異抄』「第6条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
7.	『歎異抄』「第6条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
8.	これまでの学習内容の振り返り 小レポート作成	これまでの振り返り	
9.	『歎異抄』「第7条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
10.	『歎異抄』「第7条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
11.	『歎異抄』「第8条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
12.	『歎異抄』「第8条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
13.	『歎異抄』「第9条」についての発表および攻究（1）	発表準備と振り返り	
14.	『歎異抄』「第9条」についての発表および攻究（2）	発表準備と振り返り	
15.	これまでの学習内容の振り返り 小レポート作成	これまでの振り返り	
教科書	『真宗聖典』、『新漢語林』、『古語林』、『仏教辞典』		
参考書	三明智彰『歎異抄講義』		
学習成果の 評価方法	「受講態度」〔発表レジュメの作成と発表内容、さらにまわりとの議論の状況〕（70％）、「小レポート」（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。		

科 目	教行信証講義Ⅰ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	三明智彰・青木 玲	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	親鸞の主著にして、浄土真宗の立教開宗の根本本典『教行信証』（『顕浄土真実教行証文類』）を読み進めていきます。 現役学生と共に社会人も学べます。九州大谷短期大学の授業を公開する趣旨から、研修員、科目履修希望者も受け入れます。 昨年度読んだ「信巻」の三心釈の至心釈から読み進めていく。		
到達目標	『教行信証』を朗読でき、その内容が分かるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業中の朗読（15%）、質疑応答（15%）、小テスト（30%）、期末レポート（50%）		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	はじめに 教行信証の概要 至心釈御自釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
2.	至心釈引文を読む①	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
3.	共同学習		
4.	至心釈引文② 至心結釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
5.	信楽釈御自釈	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
6.	信楽釈引文①	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
7.	共同学習		
8.	信楽釈引文② 前期まとめ	予習は、事前に朗読。 復習は、事後の朗読と内容理解を確認する	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『親鸞聖人真蹟集成』第1巻（授業担当者が準備する）、真宗聖典（東本願寺）		
参考書	山辺・赤沼『教行信証講義』（法蔵館）ほか適宜紹介する		
学習成果の 評価方法	授業中の朗読（15%）、質疑応答（15%）、小テスト（30%）、期末レポート（50%）によって、「授業態度」「国語能力」「思考力」「判断力」「主体性」「協調力」を評価する		
特記すべき 事項	積極的授業参加、原文朗読の練習、コミュニケーション能力を磨く		
質問・相談等 の 受 付	授業中は口頭・文章で、授業外は火曜日から金曜日日中のメールを受け付けます。早めに対応します。		

科 目	教行信証講義Ⅱ	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	三明智彰・青木 玲	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	教行信証講義Ⅰの継続授業です。親鸞の主著にして、浄土真宗の立教開宗の根本本典『教行信証』（『顕浄土真実教行証文類』）を読み進めていきます。 現役学生と共に社会人も学べます。九州大谷短期大学の授業を公開する趣旨から、研修員、科目履修希望者も受け入れます。 前期読んだ「信巻」の三心釈の信楽釈の続きから読み進めていきます。		
到達目標	『教行信証』を、朗読し、意味内容が分かり、人に解説できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業中の朗読（15%）、質疑応答（15%）、小テスト（20%）、期末レポート（50%）		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	後期のはじめ（前期の要説）、信楽釈まとめ	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
2.	欲生釈御自釈	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
3.	欲生釈引文①	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
4.	欲生釈引文②	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
5.	共同学習	予習は、各自の課題を整理する。 復習は、学習内容の振り返り	
6.	欲生心釈③	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
7.	大信海釈	予習は、朗読練習 復習は、朗読と理解の確認	
8.	共同学習	予習は、各自の課題を整理する。 復習は、学習内容の振り返り	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業中の朗読（15%）、質疑応答（15%）、小テスト（20%）、期末レポート（50%）によって、朗読の習熟、国語能力、思考力、判断力、表		
特記すべき 事項	教行信証の朗読の習熟と座談学習を重視します。		
質問・相談等 の 受 付	授業時間随時、授業外も火曜日から金曜日メールで応答します。		

科 目	仏典講読Ⅴ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	調 友希雄	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	親鸞聖人は、『仏説無量寿経』、『仏説観無量寿経』、『仏説阿弥陀経』を浄土三部経として大切にされた。本科目では、その中の『仏説阿弥陀経』を読んでいく。		
到達目標	・『阿弥陀経』とは何かを理解する。 ・『阿弥陀経』（漢文）を声に出して読むことができる。 ・漢和辞典や仏教辞典で経典のことばを調べ、意味を取ることができる。 ・発表用のレジュメを作成し、発表することができる。 ・発表に基づいてまわりと議論し、課題を深めていくことができる。		
学習成果の 評価基準	『阿弥陀経』とは何かの理解の達成度を測るために、到達度確認の小テスト及び授業内試験において、6割以上の解答ができることを評価基準とする。 樹魚内における積極的な発表・議論を「受講態度」の評価とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス・授業概要の確認	授業要覧を読む	
2.	『阿弥陀経』とは何か①	『真宗聖教全書一』を読む	
3.	『阿弥陀経』とは何か② 「『阿弥陀経』とは何か」についての小テスト	『真宗聖教全書一』を読む	
4.	序分	ノートを作成する	
5.	正宗分（1）讃極楽依正①	ノートを作成する	
6.	正宗分（1）讃極楽依正②	ノートを作成する	
7.	正宗分（1）讃極楽依正③	ノートを作成する	
8.	序分および正宗分の讃極楽依正について的小テスト	ノートを作成する	
9.	正宗分（2）勧念仏往生①	ノートを作成する	
10.	正宗分（2）勧念仏往生②	ノートを作成する	
11.	正宗分（2）勧念仏往生③	ノートを作成する	
12.	流通文 正宗分の勧念仏往生について的小テスト	ノートを作成する	
13.	これまでの学習内容の振り返り（『阿弥陀経』についての発表・議論）	ノートを振り返り整理する	
14.	これまでの学習内容とその受け止めについての授業内試験	ノートを振り返り整理する	
15.	授業内試験についての振り返り	試験内容を復習する	
教科書	『真宗聖典』、『真宗聖教全書一』、『岩波仏教辞典』、『新漢語林』、『古語林』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30％） 小テスト（30％） その他【授業内試験】（40％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	宗教法規	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	小田朋隆	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	宗教法人法および単位法人の規則、真宗大谷派宗憲等の基本的意義を学び、現代における仏教、教団および寺院の存在意義を考察する。		
到達目標	国法（憲法や宗教法人法）と宗法（宗憲や諸条例）と仏法（仏教）の相互関係を課題的に受けとめ、かつそれらと自己自身との関係を整理し認識を深める。		
学習成果の 評価基準	基本法規総則の解釈ができる。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	当科目の全容の概説、アンケート	シラバス確認	
2.	基本法規の概説 1	全体像の仮定	
3.	基本法規の概説 2	各法規の役割	
4.	法制の背景としての教団史 1	歴史を学ぶ意味	
5.	法制の背景としての教団史 2	法制の変化	
6.	法制の背景としての教団史 3	現教団の構造	
7.	同朋会運動と教団問題 1	信仰運動の動機	
8.	同朋会運動と教団問題 2	問題の所在	
9.	宗憲の意義	現行法の具体性	
10.	宗教法人法の意義	現行法の具体性	
11.	寺院規則、真宗大谷派規則の意義	現行法の具体性	
12.	教団論 1	共同体の意義	
13.	教団論 2	共同体の意義	
14.	教学と教化（法の作用と誤用）	宗教活動の本旨	
15.	仏教学としての「宗教法規」	全体像の再構築	
教科書	『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』、『教団の歩み』、『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（５０％） 定期試験（５０％）		
特記すべき 事項	担当者は真宗大谷派（包括宗教法人）宗務役員として約27年の実務経験を有しています。		
質問・相談 の 受 付	メールで受け付けます。		

科 目	声明作法Ⅲ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法Ⅲ」は、真宗大谷派の勤行形式で「昭和法要式」で行う。主に「伽陀、仏説阿弥陀経、和讃、音木」など、ご法事を中心に学ぶ。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	お経を読む（仏説阿弥陀経）	授業の復習	
2.	お経を読む（仏説阿弥陀経）同朋奉賛式	授業の復習	
3.	お経を読む（仏説阿弥陀経）	授業の復習	
4.	お経を読む（仏説阿弥陀経）	授業の復習	
5.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
6.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
7.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
8.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
9.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
10.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
11.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
12.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
13.	正信偈草四句目下、念佛和讃三淘	授業の復習	
14.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃	授業の復習	
15.	伽陀、仏阿弥陀経、和讃、音木	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	声明作法Ⅳ	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	竹下秀覚	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「声明作法Ⅳ」は、真宗大谷派の勤行で通夜・葬儀ついて学ぶ。		
到達目標	お聖教を唱和することの大切さを感じることが出来るようになる。 正確に読めるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している「お聖教の唱和の大切さ」「正確に読む」の達成度を測るために、到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	通夜・葬儀について	授業の復習	
2.	通夜・葬儀について	授業の復習	
3.	通夜・葬儀について	授業の復習	
4.	通夜・葬儀について	授業の復習	
5.	通夜・葬儀について	授業の復習	
6.	通夜・葬儀について	授業の復習	
7.	通夜・葬儀について	授業の復習	
8.	通夜・葬儀について	授業の復習	
9.	通夜・葬儀について	授業の復習	
10.	通夜・葬儀について	授業の復習	
11.	通夜・葬儀について	授業の復習	
12.	通夜・葬儀について	授業の復習	
13.	通夜・葬儀について	授業の復習	
14.	正信偈真四句目下、念佛和讃五淘	授業の復習	
15.	通夜・葬儀について	授業の復習	
教科書	大谷声明集、御文稽古本、真宗の儀式		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 20% 達成度確認 20% 定期試験 60%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	真宗と社会	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	木屋行深	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	「真宗と社会」では、様々な現場において活動されている方々から、その現実と課題について講義をしていただき、座談形式で学習・攻究を行う。		
到達目標	講義や学習・攻究を通して、社会の諸問題に眼を開くと共に、真宗を学ぶ者として、この社会でどのように生きていくのかについて考える		
学習成果の 評価基準	到達目標の達成度を測るため、社会の諸問題を自分の課題としてどう捉えるのかを、積極的な授業参加（受講態度）と定期試験で評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか①		
2.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか②	配付資料を読む	
3.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか③	配付資料を読む	
4.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか④	配付資料を読む	
5.	なぜ社会の問題が真宗の課題なのか⑤	配付資料を読む	
6.	真宗と靖国問題①	配付資料を読む	
7.	真宗と靖国問題②	レポート作成	
8.	真宗と教誨① 事前学習 教誨師について学ぶ	配付資料を読む	
9.	真宗とジェンダー① 事前学習 ジェンダーについて学ぶ	配付資料を読む	
10.	真宗とビハラー① 事前学習 ビハラーについて学ぶ	配付資料を読む	
11.	真宗とビハラー② 特別講義 藤講師	配付資料を読む	
12.	真宗とジェンダー② 特別講義 草野龍子講師	配付資料を読む	
13.	真宗と教誨② 特別講義 古賀祐法講師	配付資料を読む	
14.	まとめ		
15.	まとめ		
教科書	各テーマごとに資料を随時配布する。		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（60％） 定期試験（40％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	教化学実習Ⅲ	開講時期 履修方法	2 年前期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で「夏の法要」に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。共同して一つの法要に取り組んでいくことを通して、現場に必ず学ぶを深めていく内容。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として法要の企画や準備を積極的に行っているか、他者と協力し合うことができているかを評価する。また前期の振り返りとして学期末のレポート提出でも評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予 習 ・ 復 習	
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定	「授業要覧」を読む	
2.	事前準備① 法要の企画を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
3.	事前準備② 法要の企画を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
4.	事前準備③ 法要の学習を考える（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
5.	事前準備④ 法要の学習を考える（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
6.	事前準備⑤ 勤行の練習をする（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
7.	事前準備⑥ 勤行の練習をする（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
8.	事前準備⑦ 勤行の練習をする（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
9.	事前準備⑧ 法要の準備を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
10.	事前準備⑨ 法要の準備を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
11.	事前準備⑩ 法要の準備を行う（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
12.	事前準備⑪ 法要のリハーサルを行う	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
13.	「夏の法要」① 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」草四句目下、三洵）、学習発表、講話 など	夏の法要の要項をもとに準備を行う	
14.	「夏の法要」② 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」草四句目下、三洵）、学習発表、講話 など	夏の法要の要項をもとに準備を行う	
15.	事後総括 法要を総括する	係ごとの話し合い	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（70%）、定期試験（30%）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	教化学実習Ⅳ	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	中島 航	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	1、2年生合同で仏教学科報恩講「冬の法要」に向けた企画・学習・準備などを行い、計画に基づいて実施する。協働して一つの法要に取り組んでいくことを通して、現場に必ずる学びを深めていく内容。		
到達目標	法要の概要や目的を理解することができる。 協働して法要を勤めることができるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業態度として法要の企画や準備を積極的に行っているか、他者と協力し合うことができているかを評価する。 また後期の振り返りとして学期末のレポートでも評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 概要の確認と係の決定	「授業要覧」を読む	
2.	事前準備① 法要の企画を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
3.	事前準備② 法要の企画を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
4.	事前準備③ 法要の学習を考える（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
5.	事前準備④ 法要の学習を考える（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
6.	事前準備⑤ 勤行の練習をする（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
7.	事前準備⑥ 勤行の練習をする（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
8.	事前準備⑦ 勤行の練習をする（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
9.	事前準備⑧ 法要の準備を行う（1）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
10.	事前準備⑨ 法要の準備を行う（2）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
11.	事前準備⑩ 法要の準備を行う（3）	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
12.	事前準備⑪ 法要のリハーサルを行う	係ごとの話し合いや学習への取り組み	
13.	仏教学科報恩講「冬の法要」① 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」真四句目下、五洵）、学習発表、法話 など	冬の法要の要項をもとに準備を行う	
14.	仏教学科報恩講「冬の法要」② 讃歌（真宗宗歌、回向、恩徳讃）、勤行（「正信偈」真四句目下、五洵）、学習発表、講話 など	冬の法要の要項をもとに準備を行う	
15.	事後総括 法要を総括する	係ごとの話し合い	
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（70％）、定期試験（30％）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の 受 付			

科 目	法話基礎実習Ⅰ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	中島 航・吉元信暁・青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	法話とは、私たちに語りかけてくるお聖教の言葉（法語）について、自分の体験を通して他人にも分かる言葉で話すことである。前期は、法話とは何なのか、どのような内容なのか、そして、法話の目的は何なのかを考え、アクティブラーニングを実施する。 また法話の聞き手の心を理解するために「グリーンケア」と「看取り」についても学ぶ。		
到達目標	法話とは何かを知り、原稿を考えて法話を行うことができる。日々の学びを法話として表現できるようになる。 法話の聞き手の気持ちを理解し、考える力を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	授業の事前準備や小レポートの提出、授業中やグループワークにおける積極的な参加をもって「授業態度」の評価とする。 また学期末に行う法話実習（学内で法話の実施）においても評価する。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 授業概要	シラバスを読んでおく	
2.	法話とは何かを学ぶ① 「教化とは」 : 吉元信暁	法話とは何か考える	
3.	法話とは何かを学ぶ② 「自信教人信とは」 : 青木 玲	法話とは何か考える	
4.	法話について考える（グループワーク）	「法話について」という小レポートを準備してくる	
5.	法話を聞く 1ー① 学外に法話を聞きに行く（教区定例法話会）	他の授業の振り返り	
6.	法話を聞く 1ー② 学外に法話を聞きに行く（教区定例法話会）	他の授業の振り返り	
7.	法話を聞く 2ー③ 学外に法話を聞きに行く（近隣寺院）	他の授業の振り返り	
8.	法話を聞く 2ー③ 学外に法話を聞きに行く（近隣寺院）	他の授業の振り返り	
9.	聞き手について学ぶ① 「看取り」についての学び（人が亡くなりゆくことを考える）	他の授業の振り返り	
10.	聞き手について学ぶ② 「グリーンケア」についての学び（遺された人の心を考える）	他の授業の振り返り	
11.	法話原稿作成に関するオリエンテーション	他の授業の振り返り	
12.	法話原稿作成 法話実習の原稿を考える	原稿の準備をしてくる	
13.	法話原稿作成 法話実習の原稿を考える	原稿の準備をしてくる	
14.	法話実習のリハーサル 学内でリハーサルをする : 吉元信暁、青木玲	原稿の準備をしてくる	
15.	法話実習 学内で法話を実施する : 吉元信暁、青木玲	法話の準備	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（70%）、学期末法話実習（30%）		
特記すべき 事項			
質問・相談 等の受付			

科 目	法話基礎実習Ⅱ	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	中島 航・吉元信暁・青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	法話とは、私たちに語りかけてくるお聖教の言葉（法語）について、自分の体験を通して他人にも分かる言葉で話すことである。前期は、法話とは何なのか、どのような内容なのか、そして、法話の目的は何なのかを考え、アクティブラーニングを実施する。 また法話の聞き手の心を理解するために「グリーンケア」と「看取り」についても学ぶ。		
到達目標	法話とは何かを知り、原稿を考えて法話を行うことができる。日々の学びを法話として表現できるようになる。 法話の聞き手の気持ちを理解し、考える力を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	授業の事前準備や小レポートの提出、授業中やグループワークにおける積極的な参加をもって「授業態度」の評価とする。 また寺院法話実習（近隣寺院で法話実施）についても評価する。 学期末レポート試験（「冬の法要」法話原稿提出）。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 授業概要	シラバスを読んでおく	
2.	法話とは何かを学ぶ① 法話基礎実習Ⅰの振り返り : 吉元信暁	前期授業の振り返り	
3.	法話とは何かを学ぶ② 法話における留意点 : 青木 玲	前期授業の振り返り	
4.	法話原稿作成に関するオリエンテーション	法話について考える	
5.	法話原稿作成①	原稿を準備してくる	
6.	法話原稿作成②	原稿を準備してくる	
7.	法話の立ち振る舞いを学ぶ 本学表現学科教員より発声、話し方、立ち振る舞いを学ぶ	原稿を準備してくる	
8.	寺院法話実習① 近隣の寺院で法話を実施する	他の授業の振り返り	
9.	寺院法話実習② 近隣の寺院で法話を実施する	他の授業の振り返り	
10.	聞き手について学ぶ① 「看取り」についての学び（人が亡くなりゆくことを考える）	小レポート提出	
11.	聞き手について学ぶ② 「グリーンケア」についての学び（遺された人の心を考える）	小レポート提出	
12.	法話原稿作成①	原稿を準備してくる	
13.	法話原稿作成②	原稿を準備してくる	
14.	法話実習（「冬の法要」の法話）リハーサル①	原稿を準備してくる	
15.	法話実習（「冬の法要の法話」 リハーサル②	原稿を準備してくる	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業態度（50%）、寺院法話実習（20%）、学期末レポート試験（20%）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	課題研究Ⅰ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	卒業論文の提出に向けて、自らの課題を明確にする。前期は、卒業論文の中間発表を目標に、授業の中で発表を行う。		
到達目標	自らの課題を明確にし、7月に卒業論文の中間発表を行う。		
学習成果の 評価基準	授業内での発表を「授業内発表」の評価とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	「授業要覧」を読み、発表の準備をする。	
2.	レジュメの作り方	「授業要覧」を読み、発表の準備をする。	
3.	発表・質疑応答①	発表準備	
4.	発表・質疑応答②	発表準備	
5.	発表・質疑応答③	発表準備	
6.	発表・質疑応答④	発表準備	
7.	発表・質疑応答⑤	発表準備	
8.	発表・質疑応答⑥	発表準備	
9.	発表・質疑応答⑦	発表準備	
10.	発表・質疑応答⑧	発表準備	
11.	発表・質疑応答⑨	発表準備	
12.	発表・質疑応答⑩	発表準備	
13.	卒業論文中間発表①	発表準備	
14.	卒業論文中間発表②	発表準備	
15.	前期のまとめ	問題点の整理	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）授業内発表（50％）		
特記すべき 事項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	課題研究Ⅱ	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	青木 玲	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	卒業論文の内容を明確にすることを目標に発表を行う。		
到達目標	11月に卒業論文の発表を行い、1月には卒業論文を提出する。		
学習成果の 評価基準	授業内での発表を「授業内発表」の評価とする。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	授業概要	発表準備	
2.	発表・質疑応答①	発表準備	
3.	発表・質疑応答②	発表準備	
4.	発表・質疑応答③	発表準備	
5.	発表・質疑応答④	発表準備	
6.	発表・質疑応答⑤	発表準備	
7.	発表・質疑応答⑥	発表準備	
8.	発表・質疑応答⑦	発表準備	
9.	発表・質疑応答⑧	発表準備	
10.	発表・質疑応答⑨	発表準備	
11.	発表・質疑応答⑩	発表準備	
12.	卒業論文発表①	発表準備	
13.	卒業論文発表②	発表準備	
14.	事後学習①	問題点の整理	
15.	事後学習②	問題点の整理	
教科書	『真宗聖典』		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（50％）授業内発表（50％）		
特記すべき 事 項			
質問・相談 の 受 付			

科 目	卒業論文	開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	三明智彰	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	本学仏教学科の学びの集大成として、各自の研究課題に基づく研究成果を論文の形で発表します。		
到達目標	自分自身の仏教の受け止めを誤りなく正確に論述することができるようになる。		
学習成果の 評価基準	論文の内容と口頭試問によって、読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の達成度を判断評価する（各25％）。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授業時間外学習 予習・復習	
1.			
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書			
参考書			
学習成果の 評 価 方 法	卒業論文と口頭試問 詳細を年度初めに説明します。		
特記すべき 事 項	読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力を無学用に勤める。		
質問・相談 の 受 付	授業と平日日中のメールに随時応答します。		